

芦田	中学校区	校番 40	福山市立 有磨小 学校
最終更新日		2025年(令和7年)2月1日	

I 福山市	ミ ッ シ ョ ン ビ ジ ョ ン	福山に愛着と誇りをもち、変化の激しい社会をたくましく生きる子どもを育てる。 「福山100NEN教育」の基本理念のもと、各中学校区・学校が「21世紀型“スキル&倫理観”」の育成に向けた特色ある教育課程を編成し、日々の授業を中心として評価・改善を進めながら、子どもたちの確かな学びを実現している。
-------	----------------------	---

II 中学校区	前年度学校関係者評価の主な内容	児童生徒の現状	育成する力 (21世紀型“スキル&倫理観”)	課題解決・意思決定、コミュニケーション、思いやり
	・学校だよりや行事紹介写真資料などを当日配布し、学校の取組や近況を具体的に説明した。 ・校区内の3校を順に会場とし、評価委員全員にそれぞれの学校を見ていただいた。 ・それぞれの地域には歴史と伝統があり、そのことを踏まえた教育内容を継承してほしい。 ・校区内児童生徒が伸びるようにそれぞれに工夫をして、教育活動に当たっていく。 ・行事の開催や取組の仕方について、今後も保護者・地域住民の方々への理解と協力を仰ぐとともに、連携を図る。	・落ち着いた状況と温かい雰囲気の中で、生き生きと活動している。 ・基礎学力は概ね定着しており、学習に対する意欲は高い。グループでの活動により、発表できるようになっている。 ・協働的に課題を解決しようとする意欲も出てきている。 ・友だちの意見から自分の考えを深めることと表現することには課題がある。 ・9割以上の児童・生徒が「友だちのよい所に気づいた。」と肯定的にとらえている。しかし「自分にはよいところがある。」の肯定的評価の割合は、8割程度である。	目指す子ども像 (義務教育修了時の姿)	ふるさと芦田に愛着と誇りをもち、未来を切り拓き、たくましく生きる児童生徒
			中学校区として統一した取組等	「児童生徒主体の学び」の創造 ○取組推進のための校区全体研修会 ・楽しい授業づくり（主体的・対話的・深い学び） ・考えを深め表現する道徳の授業づくり（理論研修・教材分析・授業研究会） ・学力・生徒指導・体力向上（調査結果の分析・改善策の検討・取組実施） ・SDGs教育の推進（教育活動への位置付け・教科や学年を超えた枠組の構築）

III 自 校

ミッション
21世紀をたくましく生き抜く知・徳・体のバランスのとれた人間性豊かな児童を育成する
学校教育目標
豊かな心をもち、主体的に生きる 有磨っ子 を育てる 「よく聴き 進んで学ぶ子」「なかよく助け合う子」 「最後までやりぬく子」
現 状
〈児童〉 全国学力学習状況調査やC R T等の諸学力調査においてほとんどの学年が県及び全国平均より上回っている。また、学力の伸びを確かめる調査では学年によっては伸び率が低いところがあるがおおむね基礎的学力は定着している。決められたことを守ろうとしたり、何事にもまじめに取り組んだりするなど集団としての規律ある行動がとれる半面、新しいことや経験のないことにチャレンジすることは少ない。また、保育所の頃からの同一集団の中で過ごしているため、固定化された人間関係や、そこから生じる児童相互の関わり合いにより、思考の深まりや情報のアウトプット等の個人差には課題が見られる。 〈授業〉 児童につけさせたい力を明確にした単元づくりを行い、1時間ごとの授業を組み立てていく研究を積み重ねてきている。 教えることと考えさせることを明確にし、「児童に何を任せるのか」教員が具体的な考えをもち指導していくことが必要である。また、「子ども主体の学び」に向けて、児童の気づきやつぶやきを大切に、教員がファシリテーターとして児童の考えをつないだり、深めたりする授業を作っていくように授業改善を図ることが必要である。

育成する力 (21世紀型“スキル&倫理観”)	課題解決・意思決定	コミュニケーション	思いやり	
目指す子ども像	小1・2	課題に対してあきらめずに取り組み、類似点・相違点を見つけたり、理由付けをしったりしながら表現している。	自分の考えをはっきりと、最後まで伝えている。	学校や地域の人に自分から声をかけている。身近な人に温かい心で接し、親切にしている。
	小3・4	課題に対して見通しをもち、他の考えと比較したり、それを基に新たな発見をしったりしながら解決している。	友だちの考えとつなげたり、比較したりしながら話している。	学校や地域の人と自分から関わろうとしている。相手の気持ちを考えて、進んで親切にしている。
	小5・6 中1	自ら課題を見つけ、複数の情報を基に、類推したり、深化させたりするなど、工夫しながら解決している。	話し手の意図を考えながら聞いたり、相手の意見を受けて自分の考えを話したりしている。	学校や地域をよりよくするために行動している。相手の立場に立ち、誰に対しても親切にしている。
	中2・3	自らの考えをもち、既習事項、収集した情報や生活体験などを根拠にして、比較、分類、関連付けて物事を考え、解決している。	多様な他者との意見の違いを認め、思考・判断したことをわかりやすく表現したり、議論したりしている。	地域や社会との関わり合いを通して、人としての思いやり、周りへの感謝の心をもち、その気持ちを行動や言葉に表している。
研究	テーマ	自ら考え、伝え合いながら学びに向かう児童の育成		
	内容等	＜仮説＞つけたい力を明確にした単元づくりを行えば、主体的に学習に取り組むであろう。 ○児童の「言葉」と「気づき」でつないでいく授業の実践 ・解決する必然性のある教材や課題に出会わせ、見通しをもって学ぶことができる授業 ○SDGsを意識した授業づくり		
めざす授業の姿	・育成すべき資質能力を明確にした適切な「ねらい」のある授業 ・評価規準が「ねらい」と整合している授業 ・「めあて・課題・まとめ・振り返り」を適切に位置づけている授業 ・児童に考えさせる時間が学習活動に位置づいている授業 ・個に応じた指導の工夫、特別な配慮を必要とする児童への指導の工夫がされている授業			

年 目	中期経営目標	重 点	分 類	短期経営目標	目標達成に 向けた取組	評価指標	中間評価（10月1日）				最終評価（2月末）				
							□指標に係る 取組状況	プロセス 評価	達成 評価	改善方策	□指標に係る 取組状況 ◎短期（中期）経営 目標の達成状況	プロセス 評価	達成 評価	総合 評価	改善方策
4	○全教室での「子ども 主体の学び」の実現	★	継続	・「子どもの主 体学びの実現」 を意識した授業 づくり・授業実 践を通して、確 かな学力の定着 を図る。	・つけたい力を明確にした単元 づくり ・児童と共有した学習課題設定 ・児童の言葉や気づきでつなぐ 授業づくり(つなぎ言葉) ・自己の学習状況を認識できる 振り返りの充実 ・SDGs教育の推進	・主体的で深い学びに 関するアンケート項目 における児童の肯定的 回答80%以上 ・国・算・理テスト 80点以上の児童80% 以上	□「主体的・対話的で深い学 び」に関する質問項目の肯定 的回答78.3% つけたい力を 明確にした単元づくりの交 流・検証を行った。 □国・算・理テスト80点以上 の児童83.3% 学習指導要領 をもとにねらいを明確にした 授業づくりを行った。	3	3	・解決する必然性のある 課題を設定すること、つ けたい力を明確にするこ とを意識した単元づくり ができるように教材研究 をする。 ・全校で朝タイムの時間 にプリント等を活用して 基礎学力の定着を図る。	□つけたい力を明確にした単元づ くりを行うことができた。 □教員が児童と共有した学習課題 を設定し、児童が見通しを持って学 習を進めることができた。 ◎国・算・理テスト80点以上の児 童86% ◎児童アンケート「考えることが おもしろい」肯定的回答81.3%	3	3	4	・自己の学びを自覚できる ように振り返りの視点を設 定する。 ・校内研修では、児童の ノートを見合うことで振り 返りの充実を図る。 ・「めあて」「まとめ」の 整合性を意識して授業づく りを行う。
4	○教育活動全般を通し た児童の自己肯定感の 高揚		継続	・自他のおい ところを認め、優 しく強く助け合 う児童の育成を 図る。	・教育相談体制の充実（組 織的な生徒指導体制の確 立） ・全教職員による児童一人 一人の情報共有	・児童アンケートによ る「自分にはよいと ころがある」「友だちの よいところをみつけよ うと思う」と回答する 児童85%以上	□児童アンケートで「自分に はよいところがある」肯定的 回答85.0% 「友だちのよ いところをみつけようと思う」 肯定的回答87.5% 自己肯定 感の低い児童の割合が昨年度 より小さく、児童がお互いを 認め合う場が形成されてい る。	4	3	・引き続き児童中心にお 互いを認め合える機会を 作っていく。 ・学校生活の様々な場面 で、児童の頑張りを認め る声掛けを続けて行く。	□自己肯定感の低い児童の割合が 前回より小さく、児童がお互いを 認め合う力が高まってきてい る。 ◎児童アンケートで「自分にはよ いところがある」肯定的回答 88.8% 「友だちのよいところを みつけようと思う」肯定的回答 93.8%	3	4	4	・児童が主体的に活動でき る場面を設定し、自分と友 だちを認める機会を作る。 ・学校生活の様々な場面 で、児童の良さや頑張り を認める声掛けを続ける。
3	○児童の健やかな心と 体の育成	★	継続	・自分の健康や 体のことを意識 して生活する児 童の育成を図 る。	・体を動かす運動や遊びの 紹介、実施 ・体育の時間と家庭学習を つなげた運動の実施 ・日常的な学級指導に加 え、時宜を得た養護教諭等 による保健指導	・児童アンケートによ る「体を動かすことが 楽しい」と回答する児 童80%以上 ・メディアコントロール 週間における平日の メディア視聴時間1時 間以内80%以上	□児童アンケート「体を動か すことが楽しい」と肯定的回 答91.3% 全校での外遊びな ど楽しく体力づくりができ た。 □メディアコントロール週間 における平日のメディア視聴 時間1時間以内89.6% 自分 で目標を設定することにより 自信につながった児童もい た。	4	4	・引き続き「わくわくタ イム」や外遊びなどで楽 しく体を動かせるように 取り組む。 ・メディア視聴時間を意 識して取組めた児童が多 かった。引き続きコン トロールできる力がつく よう、メディア視聴に代 わる過ごし方を一緒に考 えながら進めていく。	□友だちと一緒に遊ぶ楽しさを感じ ることができた。 □自分でより高い目標を設定し、 それを達成することで自信につ ながった児童もいた。 ◎児童アンケート「体を動かすこ とが楽しい」と肯定的回答91.3% ◎メディアコントロール週間にお ける平日のメディア視聴時間1時 間以内89.4%	3	4	4	・児童が主体となる遊びを 通して、楽しく体を動か せるように取り組む。 ・メディア視聴時間を意識 し、高い目標を設定して取 り組めた児童が多かった。 引き続き、メディア視聴に 代わる過ごし方を児童や保 護者と一緒に考えながら取 組を進める。
3	○安全で安心できる学 校の実現		継続	・児童と保護者 が安心、安全な 学校生活を実感 できる環境をつ くる。	・保護者への丁寧な対応と 連携 ・学校からの積極的な情報 発信 ・地域人材等の積極的かつ 効果的な活用 ・行事写真の校内掲示、毎 月HP更新作業の時間確保	・保護者アンケートに よる学校教育に関する 項目の肯定的評価 90%以上 ・月2回以上のHPの 更新	□保護者アンケートで「安心し て子どもを学校に通わせてい る」肯定的評価98.7% 児童の健康状 態や学習、生活の様子について連 絡したり家庭訪問したりした。 □学校便りや行事写真の校内掲示 で情報を開示した。HP更新作業時 間は確保したが、月2回以上の更 新はできていない。	3	3	・児童の課題に対して事実確 認等の初動を確実にし、組 織で対応し、迅速に保護者との 連携を図る。 ・最新の情報を提供し、学校 教育活動への理解を図る。ま た、ゲストティーチャーを招 請し、効果的な教育活動を推 進する。	□不祥事・いじめ防止委員会を定期開催 するとともに、児童の課題に対して迅速 に組織的に対応し、保護者とも連携し た。 □学校便り、行事写真の校内掲示とHP で行事や学習・生活の様子を月2回以上 更新し情報を開示した。また、地域の支 援員の協力を得て教育活動を行った。 ◎保護者アンケートの肯定的評価 97.5%	3	4	4	・引き続き、児童の課題への 対応を迅速目組織的に行 う。また、保護者との連携を 丁寧に行う。 ・児童がより主体的に学習に 取り組むための授業改善の研 修を推進する。 ・HP更新作業の時間を確保 し、最新の情報を提供する。
3	○自分の仕事に意義や やりがいを感じる働き 方改革の推進		継続	・教職員の心と 体の元気が児童 の生き生きとし た学びにつながる ような学校運 営を行う。	・定時退校日の徹底 ・入校・退校時刻記録の確 実な入力と教職員への助言 指導 ・行事準備や業務遂行のた めの時間の確保	・時間外勤務月45時 間以内の教職員の割合 100% ・「仕事にやりがいを感じ ている」と回答す る教職員90%以上	□時間外勤務月45時間以内の割合 89.1% ほとんどの職員が45時 間以内にすることができた。 □「仕事にやりがいを感じてい る」と回答した職員の割合100% 行事の準備や教科指導にいて の研修を全職員で行った。授業改善 案や子どもの成長について交流し 合うことができた。	3	3	・平時の18：30までの退 校と週1回の定時退校を習慣 化する。また、仕事量に偏り がないよう主事・主任と連携 し、組織的に業務遂行できる ようにする。 ・月の行事予定に作業や研修 の時間を設定する。また、分 掌会や衛生委員会を月1回以 上開催し、個々の役割を明確 にして協働できる体制を推進 する。	□週1回の定時退校日の設定と平時の退 校時刻の明示をした。 □2部会で行事や教育活動の内容を検討 し、役割を明確にして取り組んだ。ま た、仕事の進捗状況を報告、連絡、相談 しながら全教職員が関わり業務を行っ た。 ◎時間外勤務月45時間以内の割合 91.6% 教頭のみ9月、12月に45時 間を超過している。 ◎「仕事にやりがいを感じている」と回 答した職員の割合100%	3	4	4	・定時退校日の設定と日々の 退校時刻の明示を引き続き行 う。 ・2部会、企画委員会を定期 開催し、主事・主任が連携・ 協力し、組織的に教育活動を 推進できるようにする。 ・教職員の授業改善のための 理論研修や教材研究の時間を 確保する。

[プロセス評価の評価基準]

評点	評価基準
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が十分に図られた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決がある程度図られた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。

[達成評価の評価基準]

評点	評価基準
5	目標を大幅に達成し、十分な成果をあげた。
4	目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた。
3	目標をある程度達成し、一定の成果をあげた。
2	目標を下回り、成果よりも課題が多かった。
1	目標を大きく下回り、成果が認められなかった。

[総合評価の評価基準]

評点	評価基準	
5	100%以上の達成度	十分に目標を達成できた。
4	80%以上100%未満の達成度	概ね目標を達成できた。
3	60%以上80%未満の達成度	ある程度目標を達成できた。
2	40%以上60%未満の達成度	あまり目標を達成できなかった。
1	40%未満の達成度	目標を達成できなかった。